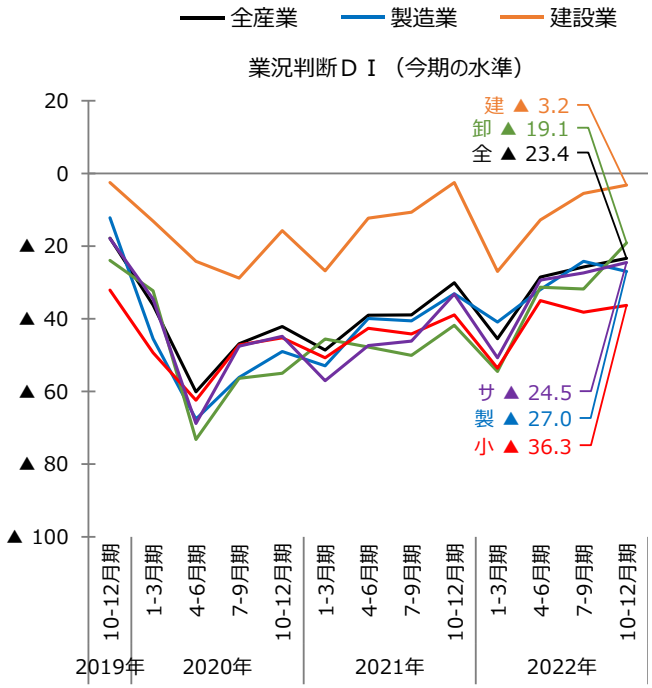
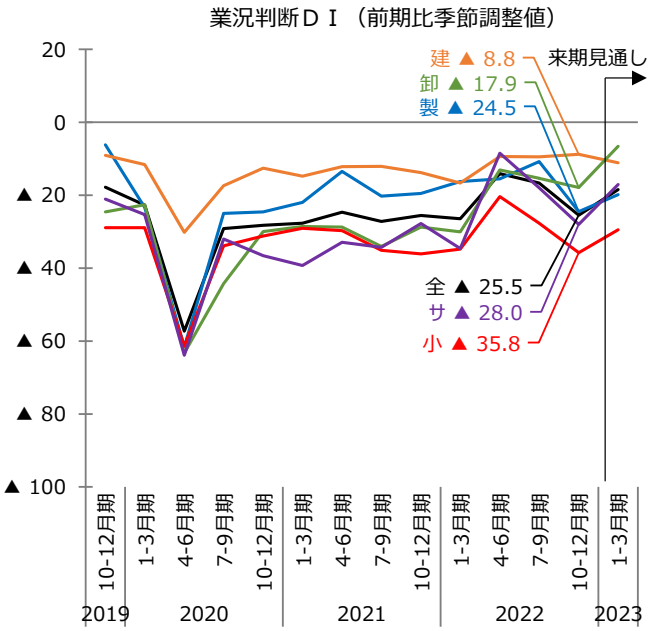
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　北海道

１．業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より2.3ポイント増の▲23.4と3期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、建設業、小売業で上昇し、製造業で低下した。



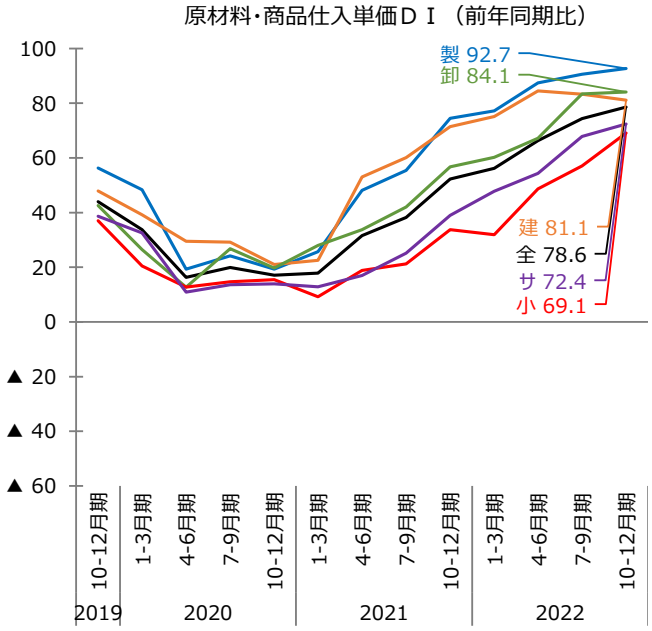
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



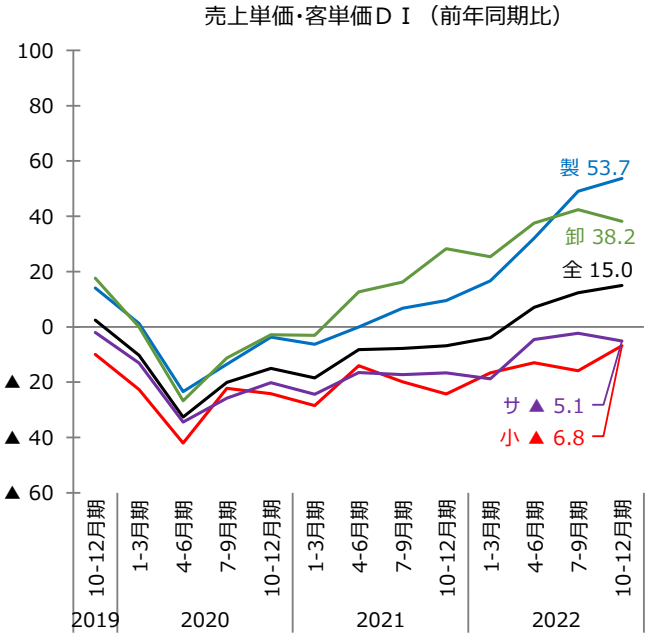
※前期（2022年7-9月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.2ポイント増の78.6と8期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の15.0と7期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、製造業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

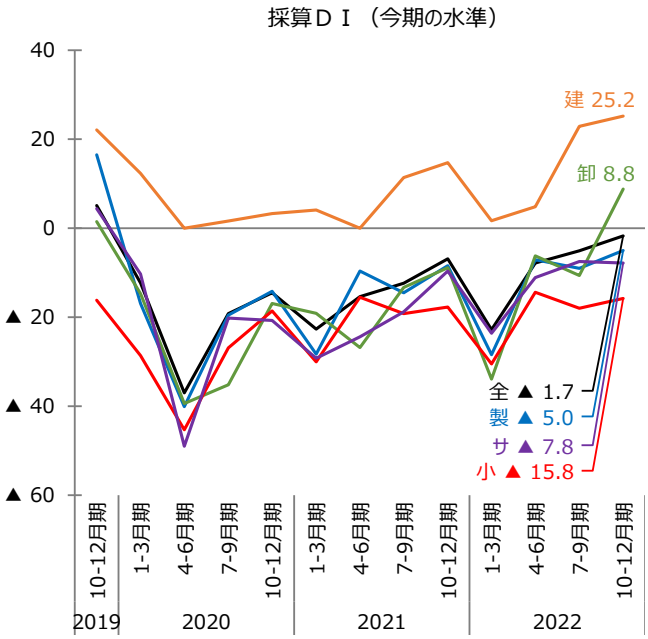
＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、北海道：745企業

第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　北海道

３．　採算

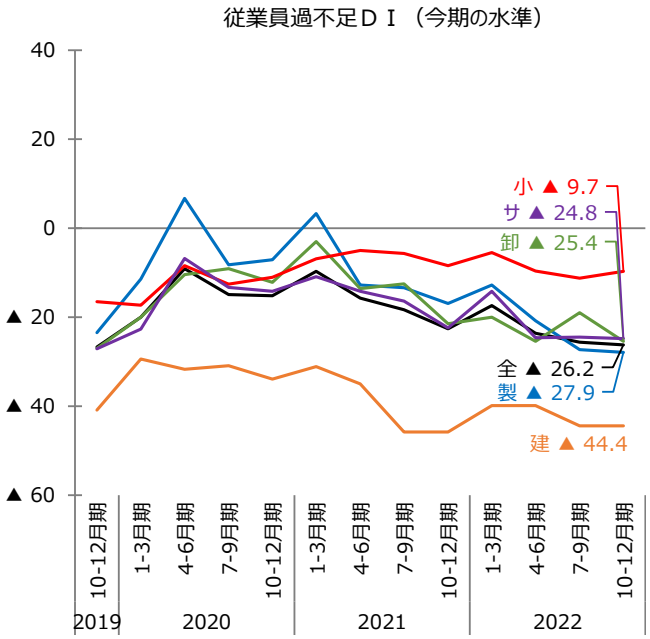
採算DIは、全産業で前期より3.4ポイント増の▲1.7と3期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、建設業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．　従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の▲26.2と3期連続低下。産業別では、小売業で上昇、建設業で横ばい、卸売業、製造業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	弊社も１２月１日から商品を値上げする。百貨店も感染予防の体制ができ、客足が戻り、昨年より上回っている。ただし、電気・灯油・ガスなどの高騰、商品の値上げが家計を圧迫し、買い控えの中、お客の理解が得られるかが心配です。	製造業	豆腐・油揚製造業
	建設投資額は右肩上がりで、特に民間の建設投資が増加傾向ですが、資材の高騰や、若年人口の減少と高齢化による担い手不足が原因で、建設コストは大幅に上昇しており、人への依存度が高い建設業には深刻な問題である。	建設業	木造建築工事業
	円安のため粗利率は低下しているが、冬物の動き出しが良く、紳士、ゴム長靴が売れて、売上は好調。ただし、最低賃金が上昇している上、電気、運賃が高止まりしていて、収益を圧迫している。	卸売業	靴・履物卸売業
	物価高から仕入額が上昇し、販売価格を値上げせざるを得ず、３年前に靴を購入した顧客が、価格の上昇から買い控え、修理を依頼する人が見受けられる。需要期を迎えているが、昨年より温暖で降雪が遅く、需要が停滞している。	小売業	かばん・袋物小売業
	資材費や燃料費の高騰、新型コロナウイルスによる利用者の減少が、続いている。	ｻｰﾋﾞｽ業	普通洗濯業
見通し	前年はＥＣ関連ユーザーからの受注が好調であったが、今年に入り、息切れ感がある。原材料値上げに対応した価格転嫁が不十分で、収益に影響している。コロナ対策緩和による観光関連の回復には、もう少し時間がかかると思われる。	製造業	紙器製造業
	材料価格の上昇に伴い、採算が悪化しており、事業計画の総予算も、材料価格の高騰、外注費の高騰に伴い、全体的に予算が膨れ上がっています。その為、施主も事業計画の採算が悪化し、弊社売上高も伸び悩んでいます。	建設業	一般土木建築工事業
	コロナ禍から取り組んだ、外販向け業務用商材の活発化により業況好転傾向。また、全国催事も続々と再開され、ブランド力で声がかかっている。アフターコロナを薄々と感じ、来期の地元観光に期待したいところ。	小売業	各種食料品小売業
	設備投資の結果、売上や客数は増加傾向であるが、仕入単価の上昇や経費の増加により、見通しの不透明さを感じている。また、夏場の繁忙期の売上水準がコロナ前に戻りつつあるため、来年度は更なる売上増を見込んでいる。	ｻｰﾋﾞｽ業	その他の専門料理店
	教育旅行の回復と旅行支援で業績は相当好転した。来年度は厳しくなると予想している。	ｻｰﾋﾞｽ業	他に分類されない娯楽業

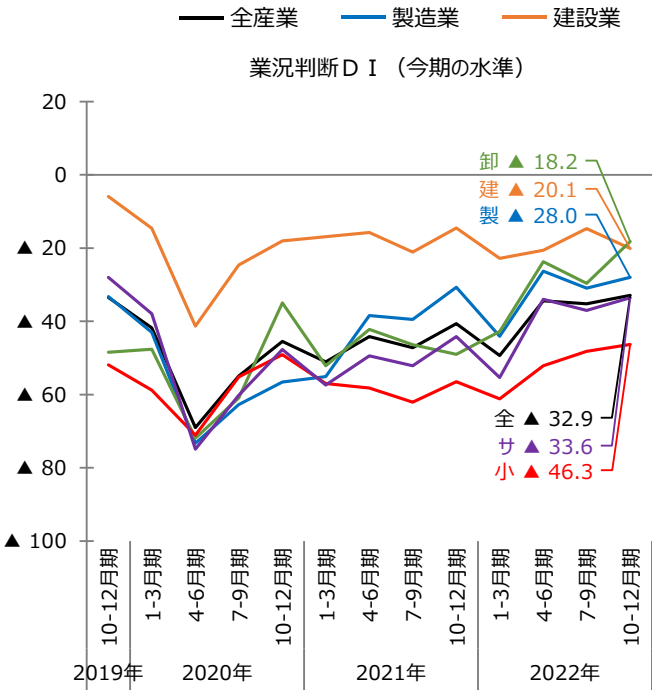
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

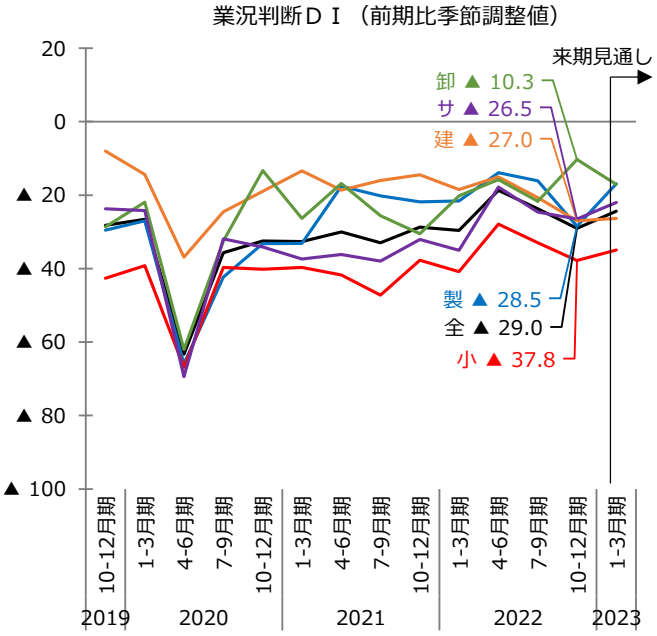
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　東北

１．業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より2.3ポイント増の▲32.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業、小売業で上昇し、建設業で低下した。



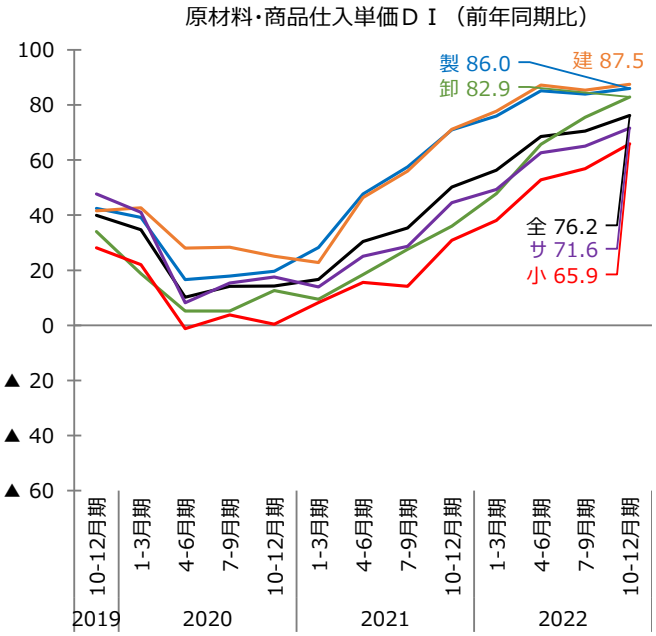
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



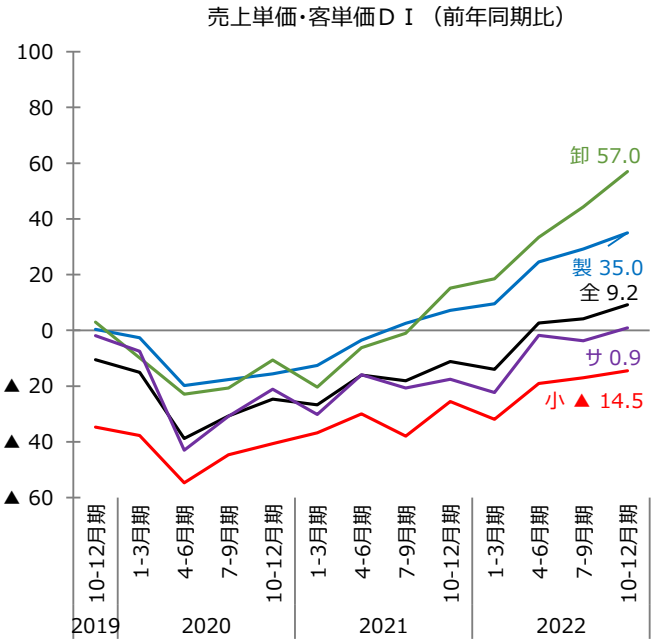
※前期（2022年7-9月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より5.7ポイント増の76.2と10期連続して上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.1ポイント増の9.2と3期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



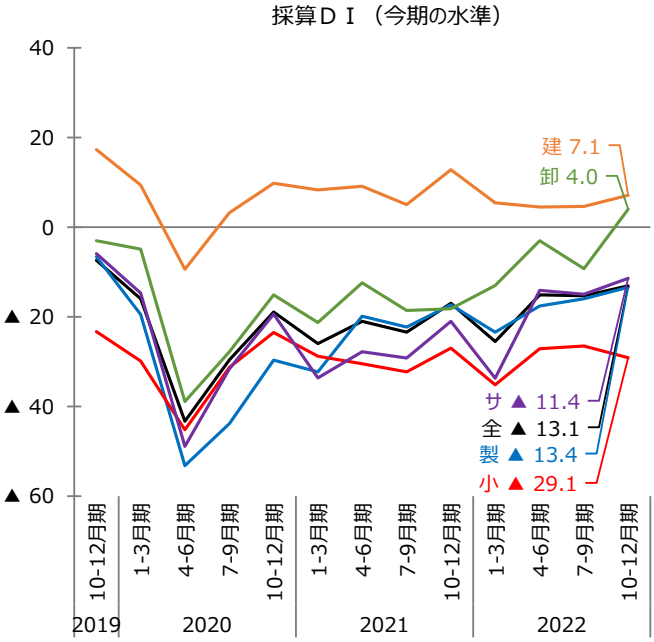
※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、東北：1,866企業

第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　東北

３．採算

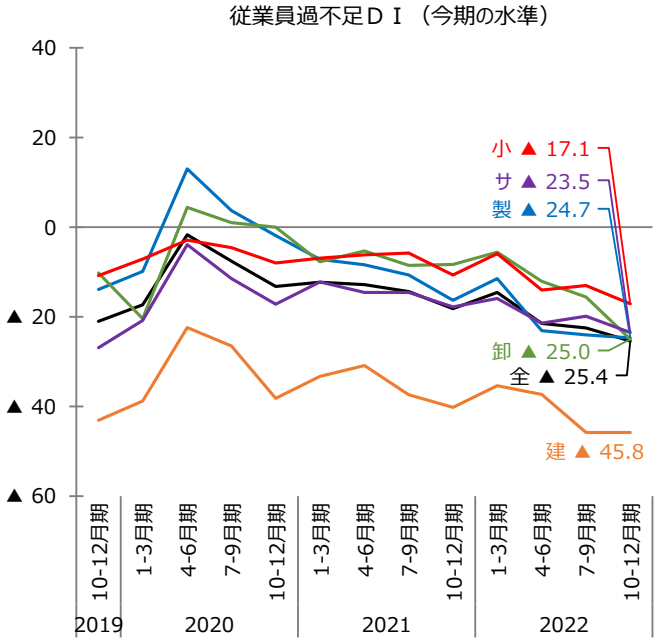
採算DIは、全産業で前期より2.2ポイント増の▲13.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業、建設業で上昇し、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.9ポイント減の▲25.4と3期連続で低下した。産業別にみると、建設業で横ばい、卸売業、小売業、サービス業、製造業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．東北の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	受注は増加しているが、部品価格上昇と部品不足と納期改善が進まず、生産性、収益面で好転が見込めない。	製造業	配電盤・電力制御装置製造業
	材料単価高騰に関しては相変わらずであり、今後更に人件費の増加分を請負価格に転嫁できなければ、採算悪化は免れない。生産性向上を更に進める必要がある。	建設業	一般土木建築工事業
	昨年以上に売上が回復傾向にありましたが、エネルギーや食品の全体的値上げに敏感に反応してき始めたと感じています。また、直近のコロナ感染者増加により、飲食店の勢いが鈍化してきたこともあり、不安な年末商戦となりそうです。	卸売業	生鮮魚介卸売業
	全国旅行支援が始まり、一気に県外の客数が増え、宿泊施設や飲食店からの売上が上昇した。しかし、コロナ感染者数が増加してきており、１１月下旬からのイベント需要に影響が出て、停滞してしまうだろう。	小売業	酒小売業
	円安の影響で輸入食材の仕入値が高騰している。それ以外の食材も値上げが続き、原価率が上がっている。光熱費高騰も続いているので、苦しいところ。コロナの影響もまだ続いているので、こらえどころだと思います。	ｻｰﾋﾞｽ業	中華料理店
見通し	全国旅行支援の開始に伴う、観光客の増加による売上回復を期待している。外国人観光客の方が購入してくれる傾向がある。	製造業	他に分類されない木製品製造業(竹，とうを含む)
	従業員、下請不足。業界全体で休日増加、単価増額等イメージアップを図るよう努める。来年にはインボイス始まるので、うまく一人親方の下請と話し合いをしながら、付き合っていきたい。	建設業	一般管工事業
	魚価高と水揚量減少で魚食離れが進むことで、生産者、加工業者の経営難が深刻化するのではと危惧される。	卸売業	生鮮魚介卸売業
	農業資材や肥料など、更なる値上げが懸念される品について、今期のうちに購入しておく顧客も多く、来期の買い控えが予想される。生活必需品ではないので、購入カットされる恐れもあり、楽観できない。	小売業	苗・種子小売業
	秋の衣替え、イベント開催等による需要増。採算はトントンであるが、今後の仕入材料の上昇、燃料代の高騰、さらに最低賃金上昇等、来期の閑散期に向け、不安要素がたくさんあり、業況は厳しくなる予想。	ｻｰﾋﾞｽ業	普通洗濯業

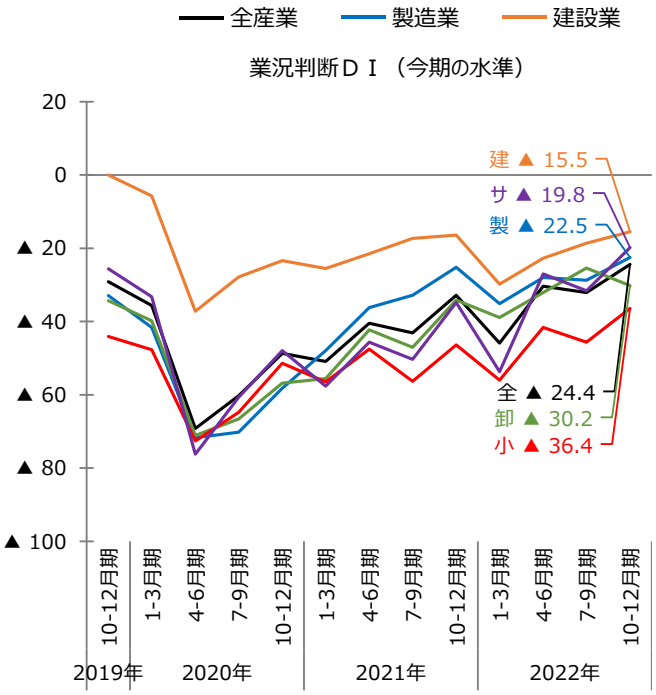
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

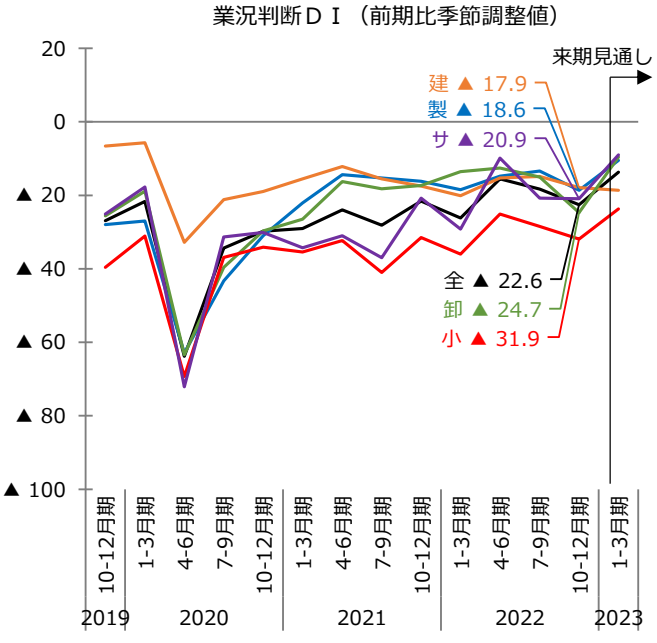
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　関東

１．業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より7.7ポイント増の▲24.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業、建設業で上昇し、卸売業で低下した。



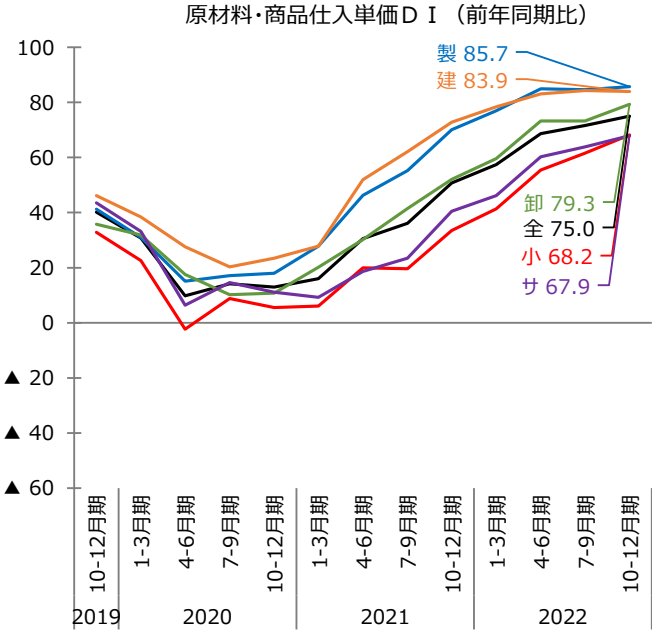
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



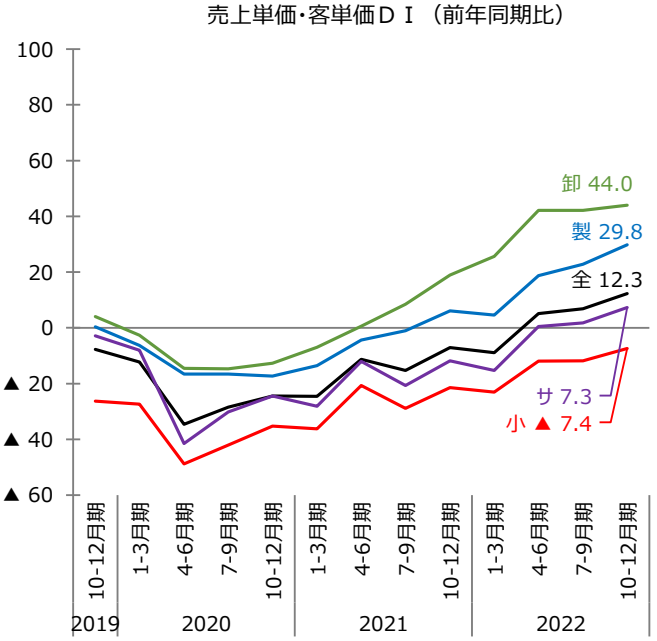
※前期（2022年7-9月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.4ポイント増の75.0と8期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業、製造業で上昇し、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.4ポイント増の12.3と3期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

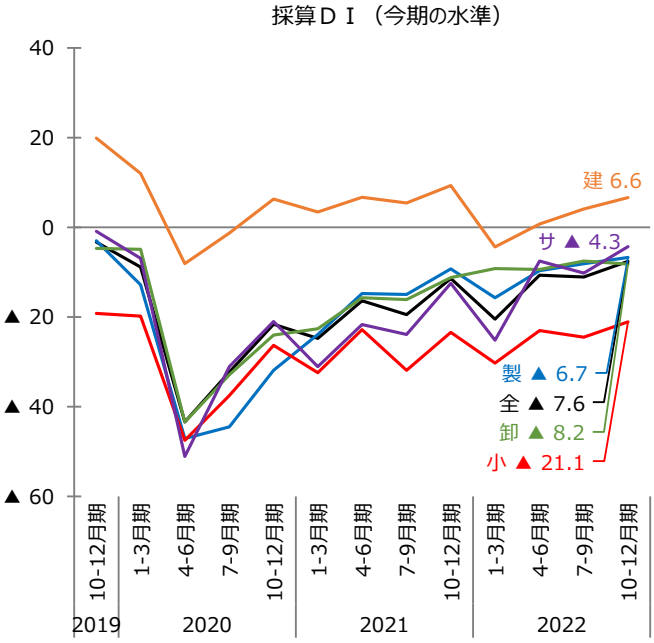
＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、関東：4,901企業

第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　関東

３．　採算

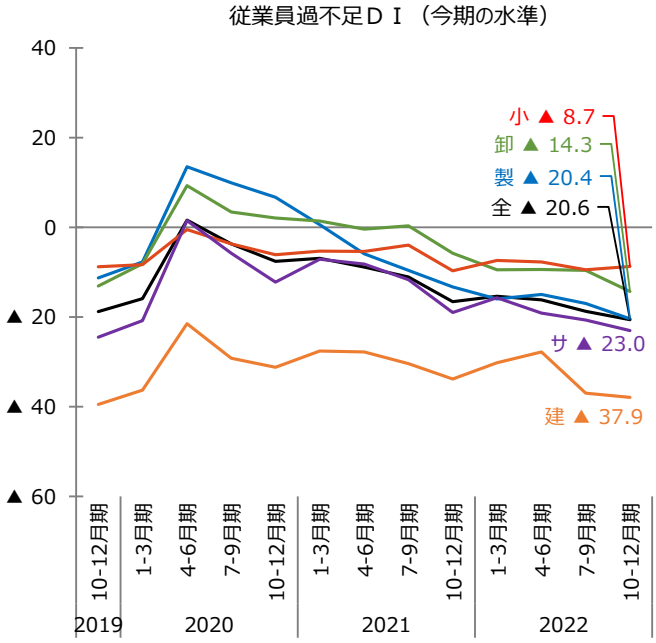
採算DIは、全産業で前期より3.5ポイント増の▲7.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、建設業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．　従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.9ポイント減の▲20.6と3期連続で低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業、建設業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	少しずつ市場は動いているが、仕入価格が上がっており、価格転嫁させるのに理解がなかなか得られないのが現状である。ペーパーレス化も進んできて、製品の回転率もかなり落ちこんでいる。	製造業	オフセット印刷業(紙に対するもの)
	以前よりも材料の入手は安定してきているが、全体的に価格は上昇している。リフォーム案件数も増加の傾向にあるため、下請業者の確保も難しくなっている。	建設業	塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	円安の影響で扱っている建材全体が高騰して、販売単価に反映できず、困っています。また、契約物件はかなりありますが、外国で作っている商品も多く、入りにくくなっています。契約しても材料が入らない為に、仕入にも困っています。	卸売業	その他の建築材料卸売業
	人件費の上昇、労働時間の短縮等により製造量が増やせない。仕入価格の上昇等により、利益確保が難しくなってきているが、販売価格を上げることでキープしている。売価を上げ続けることに無理がでてきそうな状況。	小売業	菓子小売業（製造小売）
	ランチの売上は回復傾向にあるが、ディナーは伸び悩んでいる。売上は昨年より上向いているが、材料費、光熱費の値上がりのため、業況は鈍化している。今後も高騰が見込まれ、消費者物価も上がり、状況は良くならないと思う。	ｻｰﾋﾞｽ業	その他の専門料理店
見通し	コロナ・半導体不足・ロシア制裁等、世界情勢不安から設備投資意欲の減退が懸念される。わずかに市場の鈍化が認められ、前期のような先行した注文に陰りが見えている。今後、原材料について価格上昇となれば影響は避けられず油断できない。	製造業	半導体製造装置製造業
	コロナ禍で停滞していた案件の稼働や、住宅ローン金利の上昇を予測した駆け込み需要が一時的に景気を押し上げていることが感じられる。反面、来期の引き合いに関しては例年よりもネガティブに感じられる。	建設業	一般土木建築工事業
	９月、１０月と、売上、利益共に前年同月を上回った。年末までこの調子でいけばよいが、仕入単価の上昇も大きく、価格転嫁がスムーズにいくか、不安要素も多い。この先もまだ値上げ基調は続きそうだ。	卸売業	紙卸売業
	春から続く物価上昇が止まらず、消費の冷え込みが予想される。光熱費等の上昇も経営を圧迫している。従業員の高齢化、確保難によって、今後の事業継続に支障をきたすことが予想される。	小売業	食肉小売業（卵，鳥肉を除く）
	１０月までの県民割、それ以降の全国旅行支援の影響により、コロナ以前の水準に戻りつつある。年末以降の全国旅行支援が終了した後の客足が心配である。また、コロナ第８波も気になる状況です。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル

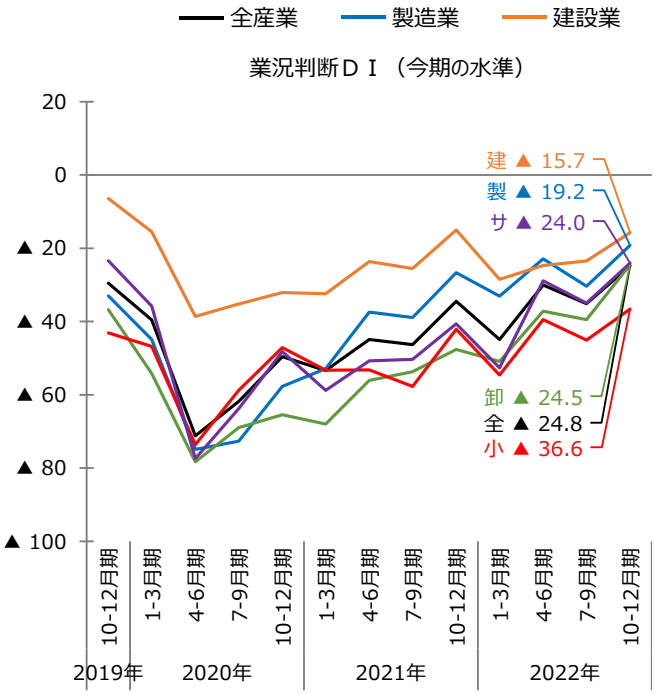
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

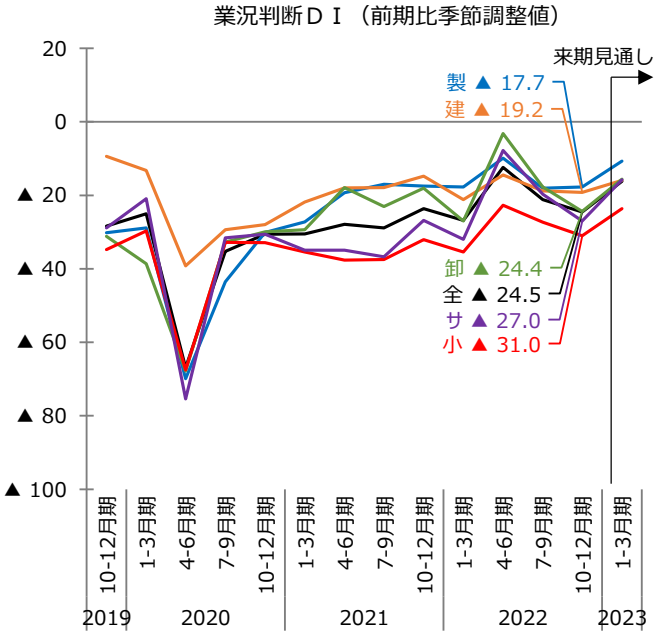
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　中部

１．業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より10.3ポイント増の▲24.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべて上昇した。



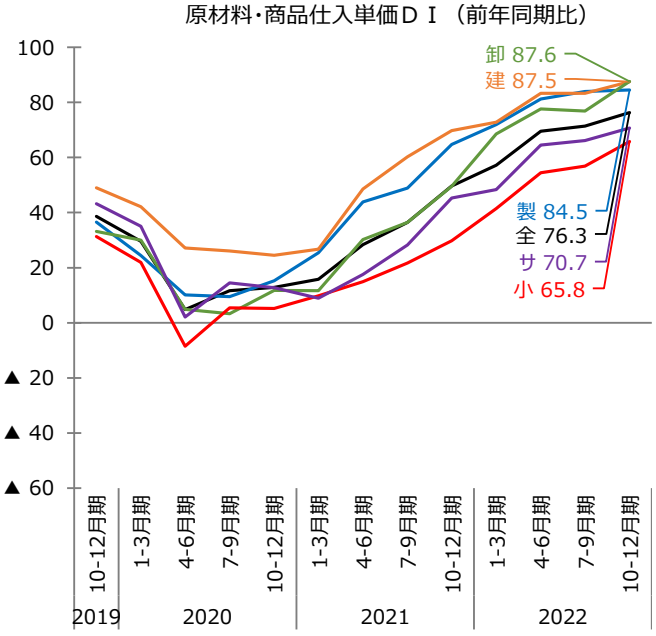
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



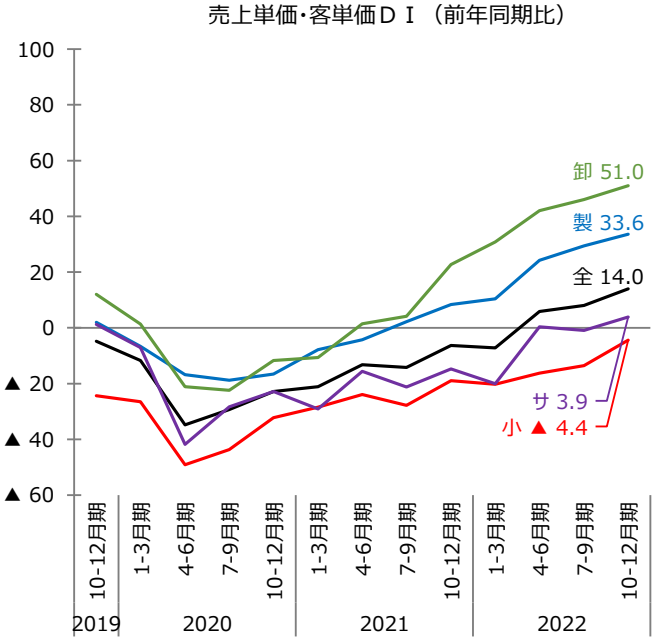
※前期（2022年7-9月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.9ポイント増の76.3と10期連続して上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より6.0ポイント増の14.0と3期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

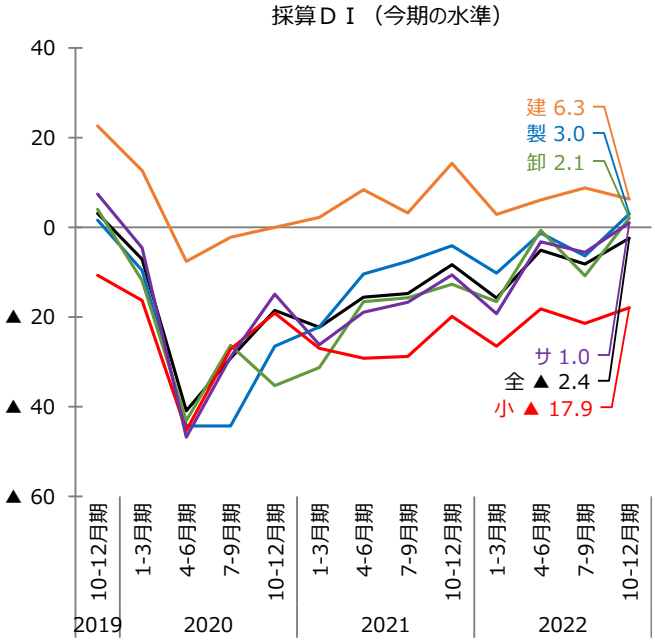
＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、中部：2,303企業

第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　中部

３．採算

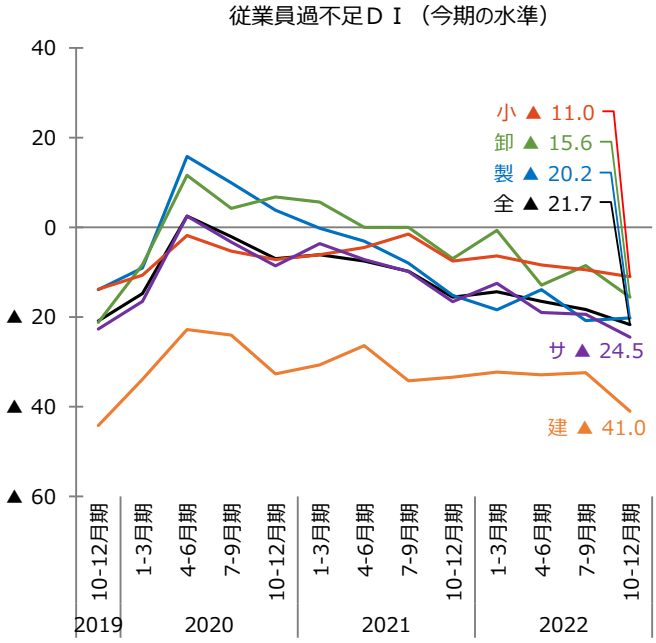
採算DIは、全産業で前期より5.8ポイント増の▲2.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、サービス業、小売業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．　従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.4ポイント減の▲21.7と3期連続で低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、建設業、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．中部の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	コロナ禍の中、予想を上回る回復と感じている。やはり人流による効果が出ていると考えられる。この状況がいつまで続くかの見通しが立たない。一方、原材料高と製品在庫に余裕がなく、これらをどう克服するかが課題。	製造業	その他の陶磁器・同関連製品製造業
	材料価格の上昇により、利益減少。これからは、新築工事は減り、リフォーム工事の方が増えると思われます。消費者の購買力が収入減に伴い、減少している。	建設業	左官工事業
	アフターコロナが見え始め、５月より売上は増加しているが、コロナ前の状況に回復していない。円安とエネルギーコストの上昇により、原材料や運賃などの経費が上昇して、利益を圧迫している。	卸売業	織物卸売業（室内装飾繊維品を除く）
	少しずつ各地でイベントが賑わい、人流が増え、客足も戻ってきたが、メーカー側の生産が間に合わず、仕入が遅れたり、売れ筋商品の在庫が足りないことから、他へニーズが移るのも早い。市場の見極めが難しく、リスクが高い。	小売業	がん具・娯楽用品小売業
	全国旅行支援で遠方からのお客様が増え、１２月、１月、２月は、海外からのお客様の予約も多くあり、コロナ禍前の売上水準まで戻りつつある。反面、材料費の高騰や、人材不足など、問題点も多々ある。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル
見通し	原材料仕入単価や人件費負担が増えているものの、売上単価、売上額ともに順調に推移しているため、利益率は横ばいである。年末にかけて、コロナ第８波の影響がどれだけでるかが懸念される。	製造業	塩干・塩蔵品製造業
	９月までは、引き合いも順調でしたが、１０月に入って、引き合いの減少がみられる。今後、物価上昇による、仕入価格の高騰や、購買意欲の低下が懸念されます。	建設業	木造建築工事業
	コロナの影響は落ち着いたと思われるが、冬から春にかけて、リバウンドが予想される。ロシアウクライナの進展によっては、原材料、エネルギーコストの一段の上昇が見込まれる為、先行きは不透明感が大きい。	卸売業	陶磁器・ガラス器卸売業
	物価の上昇により、売上・客単価は増加しているが、客数が減少傾向にある為、店ごとの工夫が必要となってくる。年末・年始で大幅な客数減にならないよう、今から対策を考える必要がある。	小売業	コンビニエンスストア（飲食料品を中心とするものに限る）
	国内外問わず、まだ不透明な状況が続いており、先行きを見通すのが難しい時代。インフレと円安は続き、インボイス制度や電子帳簿保存法の対応も必要になるなど、限られた時間と資金の中で、どう裁量していくか課題に思う。	ｻｰﾋﾞｽ業	広告制作業

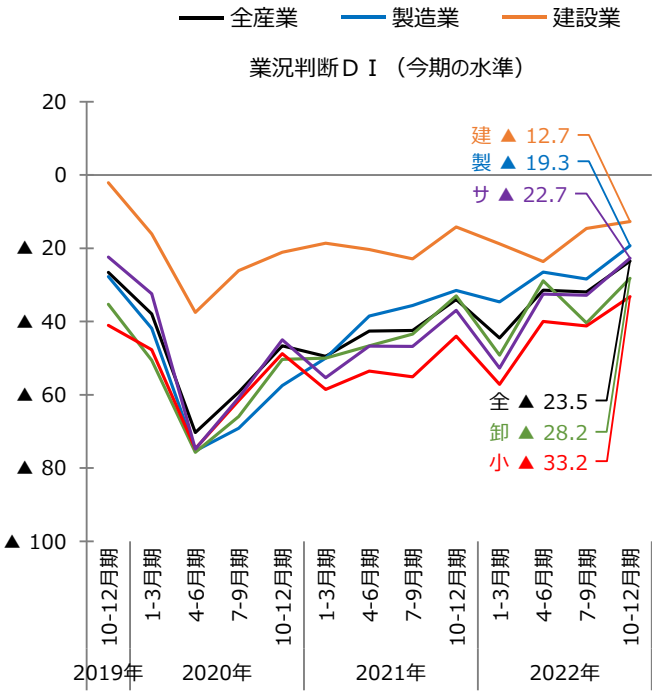
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

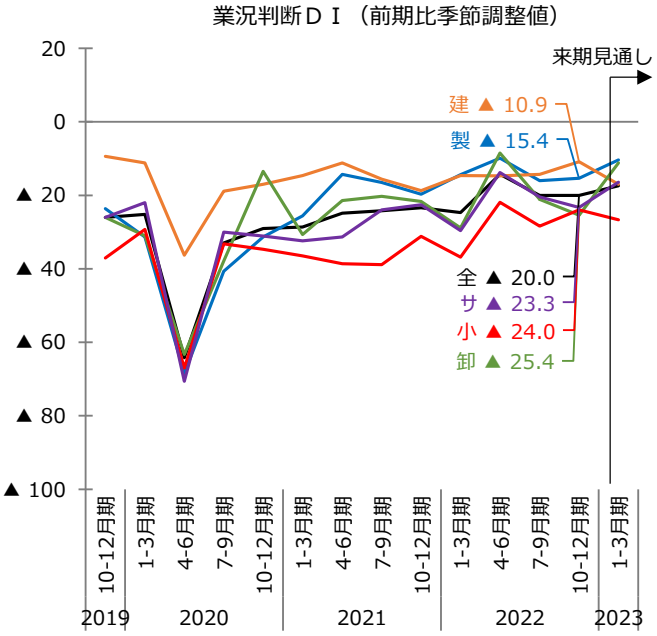
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　近畿

1．業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より8.4ポイント増の▲23.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



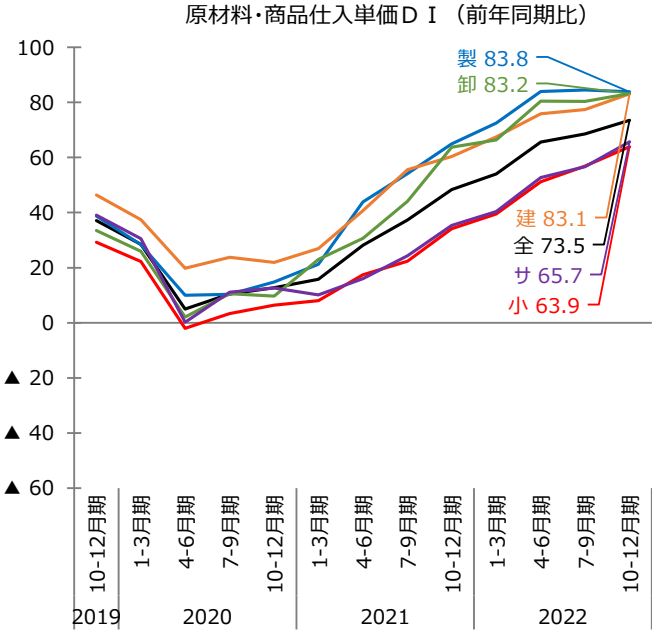
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



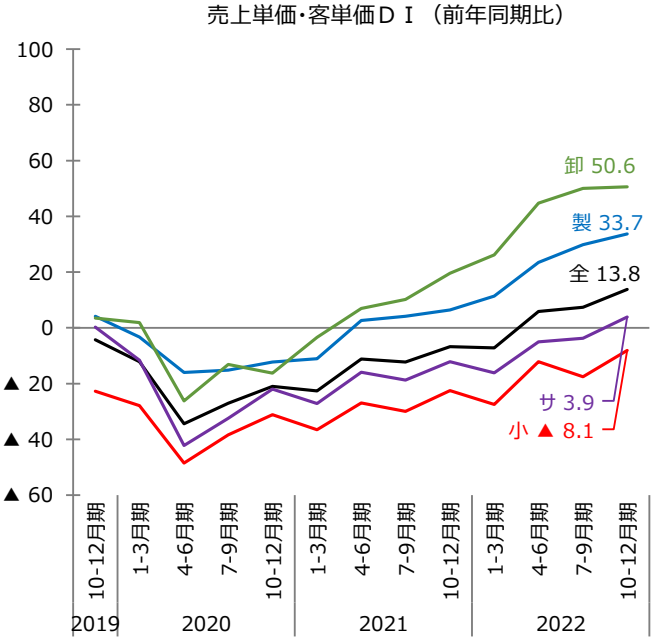
※前期（2022年7-9月期）と比べて、「好転」「不変」「悪化」で質問

2．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より4.9ポイント増の73.5と10期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、建設業、卸売業で上昇し、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より6.4ポイント増の13.8と3期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

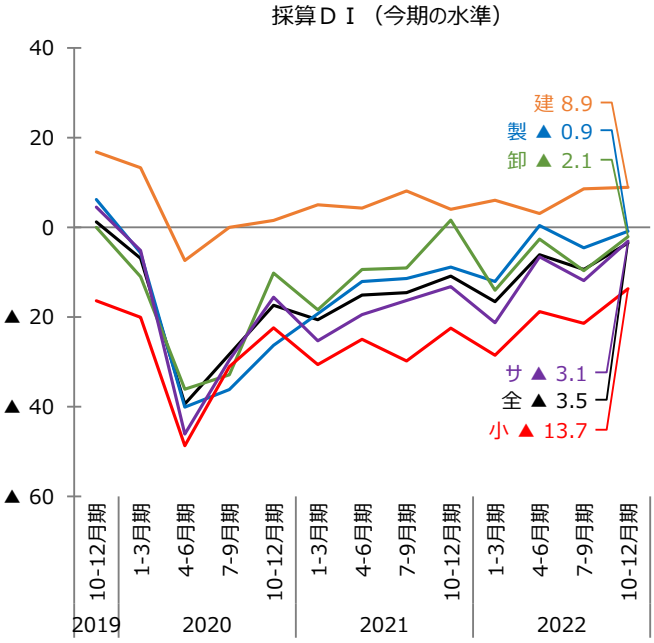
＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、近畿：2,525企業

第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　近畿

３．採算

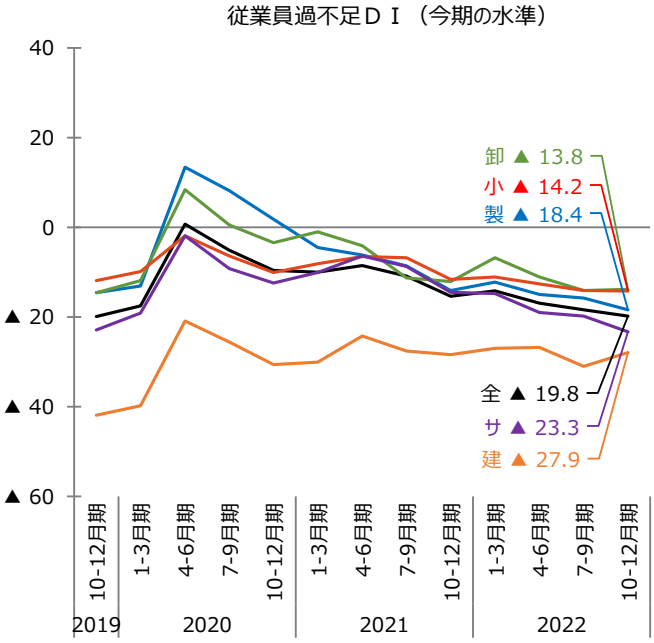
採算DIは、全産業で前期より5.9ポイント増の▲3.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．　従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の▲19.8と3期連続で低下した。産業別にみると、建設業、卸売業で上昇し、サービス業、製造業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	原材料単価の上昇は継続している。為替相場の影響は、輸出の一部が米ドル決済であるため、増収要因となっているものの、原材料の価格の上昇分が大きい。	製造業	金属工作機械製造業
	材料単価の上昇が続いており、請負単価への上乗せも難しい状況で、利益率の悪化が懸念されている。施工単価の上昇が続くと、住まいの投資が減り、業況へ影響が避けられないと思われる。	建設業	一般土木建築工事業
	現状は引合いがそれなりにあり、受注残も高水準だが、商品の入荷遅延により、売上に結び付くのに時間を要する状態が続いている。今後インフレ等により世界的に景気が停滞し、需要自体が減るリスクが高まってきたと感じる。	卸売業	電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	円安による物価高で、消費者の購買意欲が低下しており、財布の紐が堅い気がします。光熱費の高騰も長く続くと影響が大きい。	小売業	時計・眼鏡・光学機械小売業
	政府の水際対策の緩和により、ビザ申請の問合せが増えてきています。ビジネス交流会のメンバーからの紹介案件も増加しており、現在の取組みを今後も継続していきたいと考えております。	ｻｰﾋﾞｽ業	他に分類されない専門サービス業
見通し	自社製品の値上げを１０月に実施し、加工賃の値上げも、来年１月に予定しており、原材料価格の上昇分はカバーできると思われる。ただし、円安がいつまで続くかにより、原材料の価格の上昇が懸念される。	製造業	塗料製造業
	コロナ禍が３年続き、建設業界において、作業員の確保が大変難しいので、できるだけ機械を導入して、人員不足に対応していく予定。	建設業	造園工事業
	為替の影響を受け、仕入単価の上昇を製品単価に転嫁できず、利益の確保が非常に厳しい状況。国内市場にとらわれず、欧米や中国へ向けての新規開拓にも注力して行くことで、仕事量と利益の拡大を図って行く計画です。	卸売業	下着類卸売業
	現在は好転しているが、今後は物価上昇、諸経費の増加も見込まれ、お客様の買い物動向も慎重になることが予想され、年末年始は厳しい商戦になるだろう。	小売業	洋品雑貨・小間物小売業
	新型コロナの収束、全国旅行支援施策もあり、今期は売上が好調であったが、水道光熱費、材料仕入単価等の上昇が続き、大企業の進出もあり、来期以降の見通しは、厳しいと考えている。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル

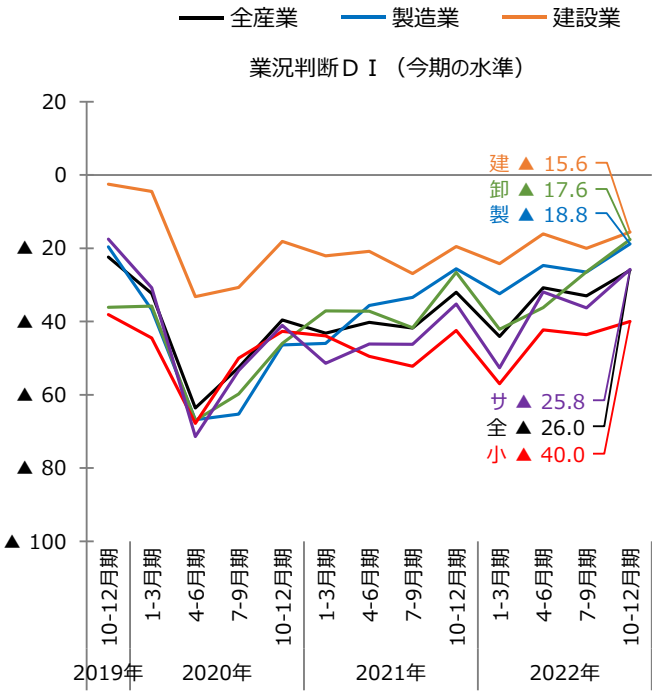
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

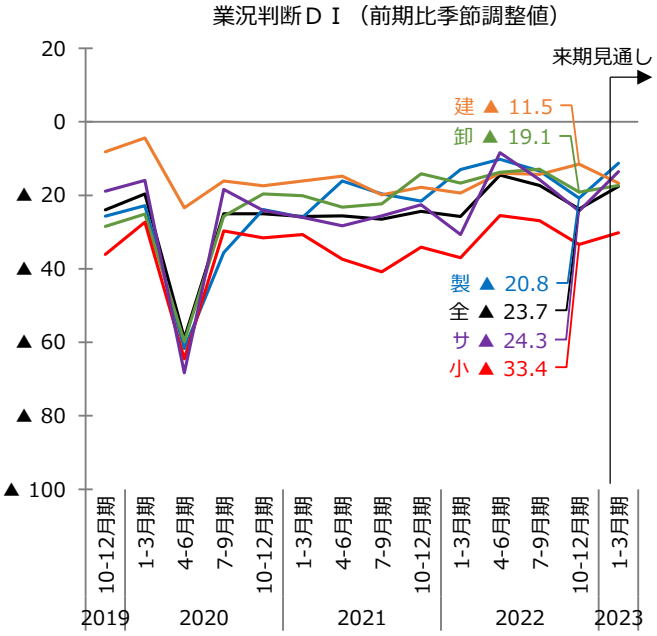
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　中国

1．業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より7.0ポイント増の▲26.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



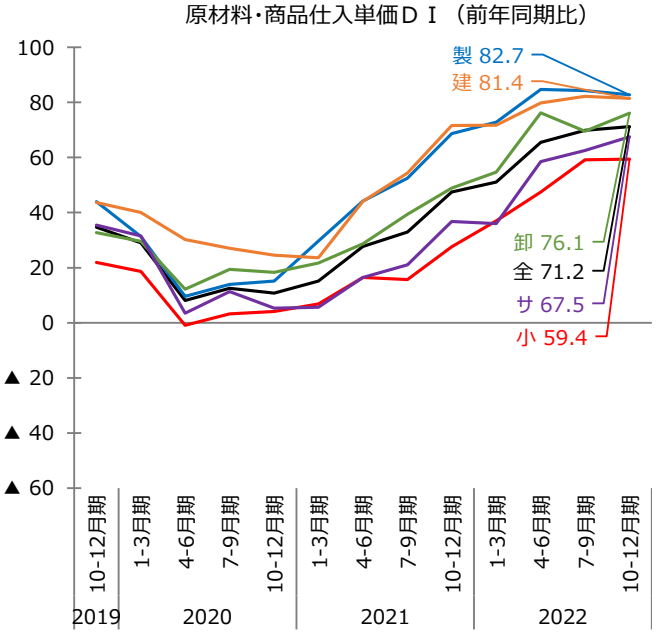
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



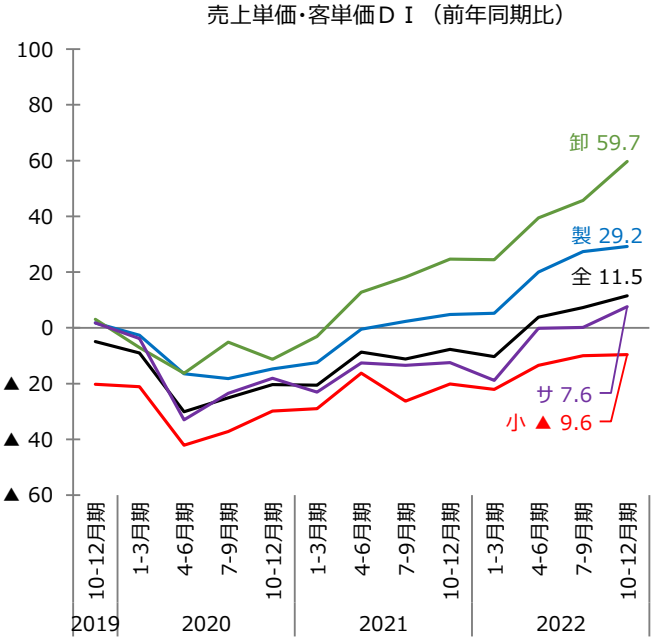
※前期（2022年7-9月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.3ポイント増の71.2と8期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業で上昇し、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より4.2ポイント増の11.5と3期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

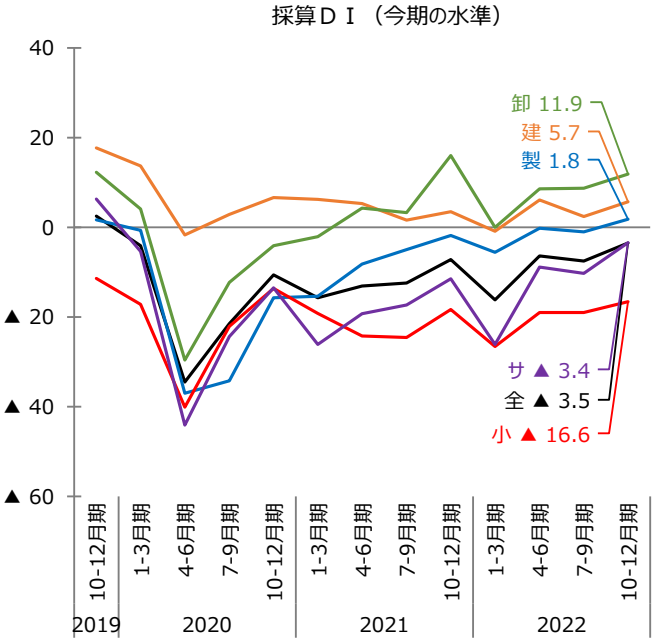
＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、中国：1,675企業

第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　中国

３．採算

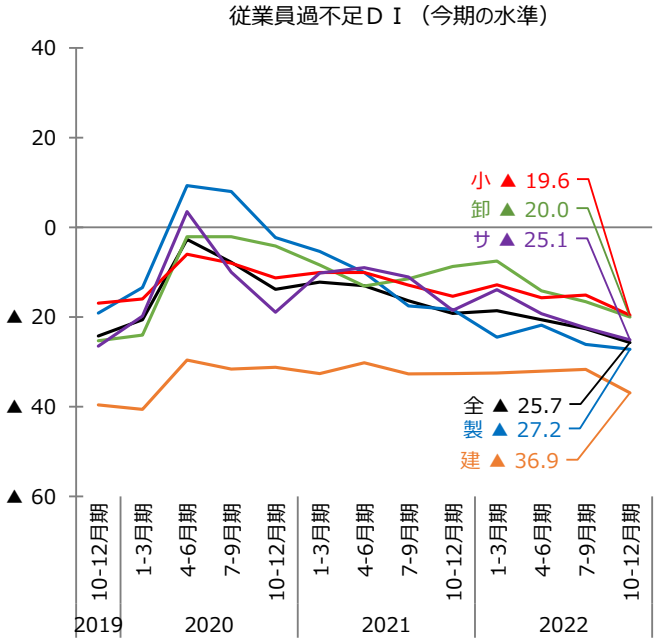
採算DIは、全産業で前期より4.0ポイント増の▲3.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．　従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.1ポイント減の▲25.7と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	原材料の高騰に加えて、円安の影響で仕入のコストが上がる一方、製品の単価が上がらない。また、従業員の賃上げも必須な状況であり、不安材料が多く残る。	製造業	その他の外衣・シャツ製造業
	公共事業の受注等順調にあるものの、材料高騰や資材の入手困難により、工期の遅延を余儀なくされ、経営に支障をきたしている。	建設業	大工工事業(型枠大工工事業を除く)
	引き続き、引合い・受注共に増加傾向にはあるが、物不足による製品・部品の確保難、仕入価格の上昇が止む気配がないことから、利益確保への悪影響がどの程度出るのか注視していく必要がある。	卸売業	電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	行楽の秋を迎え、以前よりコロナ禍ではあるが、イベント等が催されるようになり、人出が増え、お天気にも恵まれて売上げは上昇しました。度重なる原材料や資材の値上げに困窮しています。	小売業	菓子小売業（製造小売）
	全国旅行支援の開始から売上が徐々に回復している。しかし、宿泊形態が少人数に変化しており、コロナ前の売上は到底見込めない。業況は好転しつつあるが、施設の老朽化などもあり、見通しは相変わらず厳しい。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル
見通し	原油、原材料などの高騰に伴い、受注が減少してきている。今後、円安が継続すれば、海外受注の増加は期待できる。	製造業	各種機械・同部分品製造修理業（注文製造・修理）
	受注後材料が上昇し、採算がとりにくい現場が増えている。また、半導体の不足により材料の入手ができないからか、入荷が遅延し、完成引渡に遅れが出ている。先の予想をしにくい。	建設業	給排水・衛生設備工事業
	今期初めに、取扱商品の価格改定があり、予想以上の売上が、前期である９月に発生し、その反動で今期は需要が大きく減退している。市中在庫の消化が終われば、単価上昇による売上増となるが、採算が良くなるかは不明。	卸売業	酒類卸売業
	１０月からの物価高騰により、消費が落ち込んで、在庫を抱えることとなった。客層がほぼ高齢者のため、大きな値上げも憚られる。来期も、値上げに伴い、量販店に購買力が流れ、売上が下がると予想される。	小売業	各種食料品小売業
	今期は全国旅行支援の影響もあり、昨年よりも観光客が増加。ただし夏季（前期）と比べると減少。各種クーポン券の期限が年内で終了するものがあり、コロナ感染者増加と相まって、来期は厳しいスタートになりそうな状況。	ｻｰﾋﾞｽ業	喫茶店

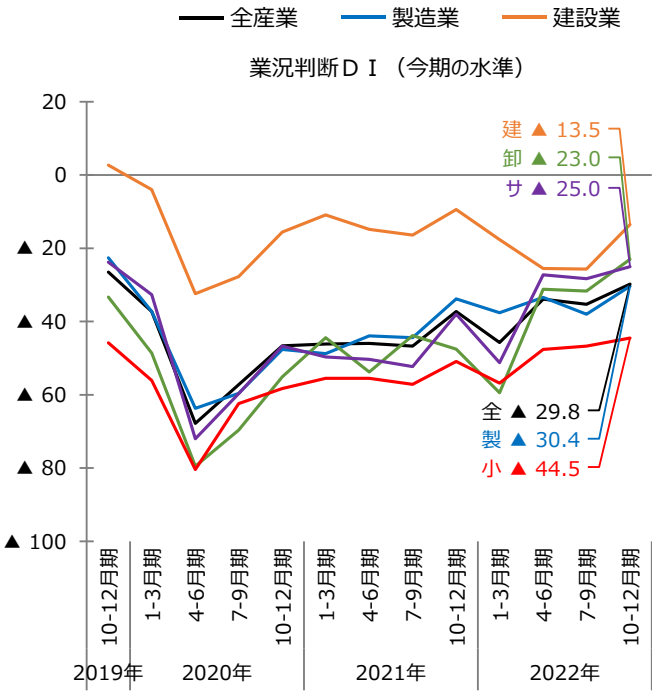
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

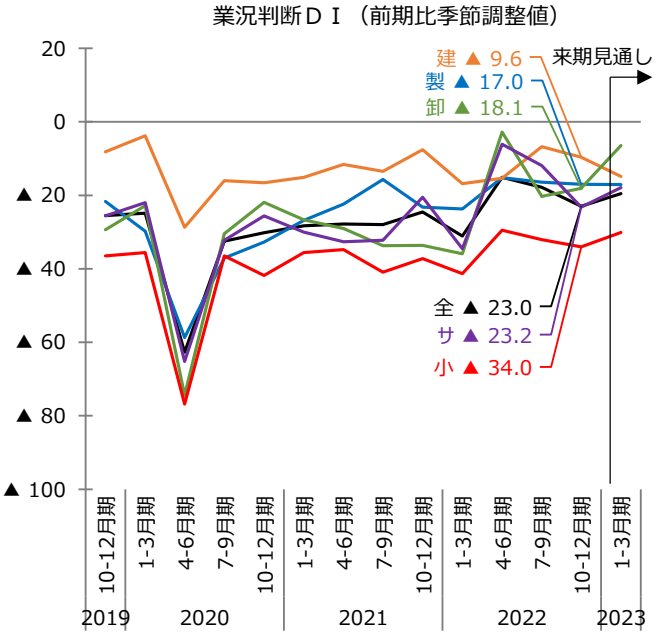
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　四国

１．業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より5.5ポイント増の▲29.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



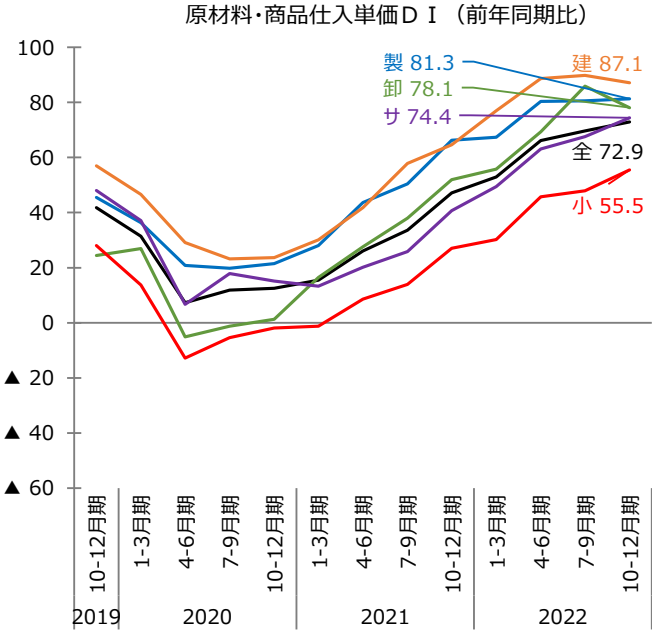
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



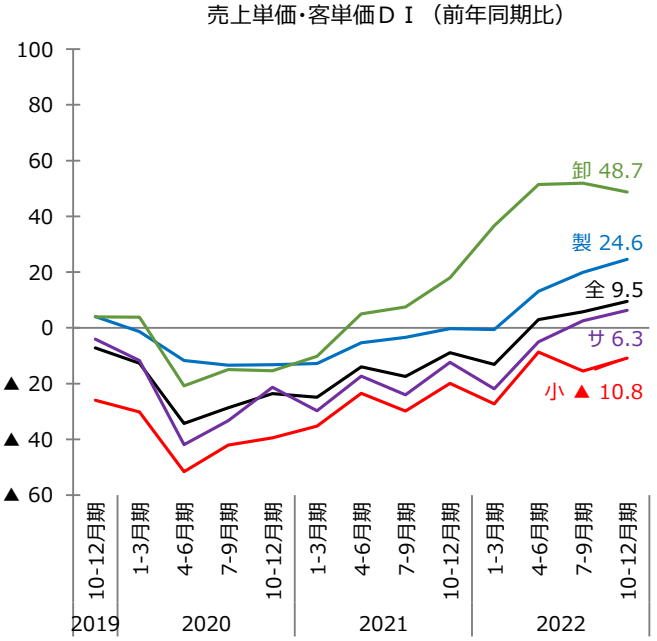
※前期（2022年7-9月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.3ポイント増の72.9と10期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より3.7ポイント増の9.5と3期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、サービス業で上昇し、卸売業で低下した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

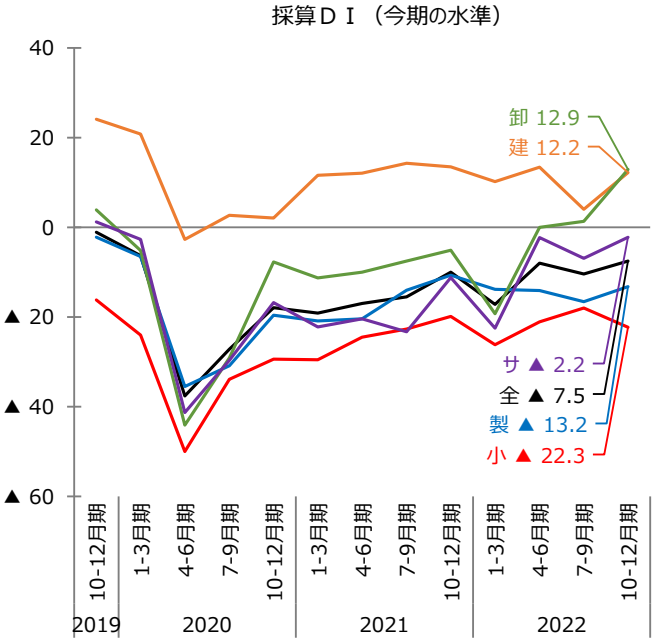
＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、四国：1,278企業

第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　四国

３．採算

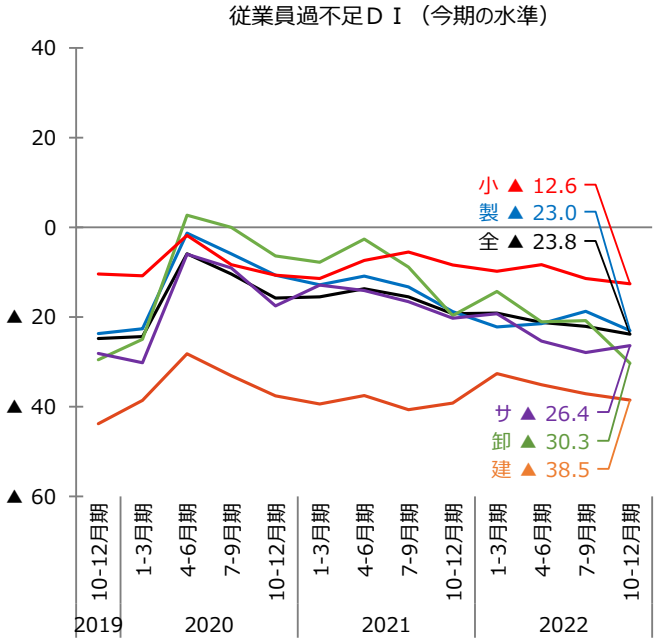
採算DIは、全産業で前期より2.9ポイント増の▲7.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

４．　従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の▲23.8と3期連続で低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、建設業、小売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．四国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	一昨年、昨年と比べれば良くなって来ていると思うが、コロナ前の水準にはまだまだ達していない。その上、材料費や燃料費の高騰で経費が高くなっていて、楽観はできない状況である。	製造業	他に分類されない金属製品製造業
	コロナウイルスは少し落ち着いてきて、全体的な売り上げにはあまり影響を受けていない。しかし、木材や鉄筋鉄骨が高騰し、建設資材の物価が上昇しているため、資金繰りに問題が出ないか不安である。	建設業	建築工事業(木造建築工事業を除く)
	全体的な物価高に対して、バランスの取れる適正な価格アップが十分にできないジレンマがある。この悩みは、県内の食品メーカー、卸売業の関係者に共通しているようである。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	仕入価格の上昇が続き、安定しない。また、半導体不足による商品器具の入荷遅れが長引いていて、販売機会を逃すなど、非常に厳しい状況が続いている。	小売業	ガソリンスタンド
	自動車納期は回復したものの、円安で資金力を持つ外国企業が中古市場に参入しており、価格競争で太刀打ちできない。	ｻｰﾋﾞｽ業	自動車一般整備業
見通し	急激な円安が進んで、外国からの資材の値段上昇により工場経費も上がっており、先行き不安である。来年以降の為替の動向、米国、中国経済の様子など不透明なことが多く、製造業は厳しい状況が続くと思われる。	製造業	一般製材業
	輸入木材や外壁材などの材料の値上がりが続き、採算が悪化している。引き合いは増加しており、今後の売上げは増加する見込みである。	建設業	一般土木建築工事業
	度重なる仕入価格の上昇により、今後より一層の需要の低下（ペーパーレス化）になることが予想される。	卸売業	紙製品卸売業
	コロナウイルスは少し落ち着いてきているが、まだイベントや展示会が中止になり、需要が減少傾向である。また、新型コロナウイルスの感染再拡大が起これば、売上の減少に大きく影響するため不安である。	小売業	無店舗小売業（織物・衣服・身の回り品小売）
	行政各所が実施するキャンペーンのおかげで、売上は伸びた。ただし、キャンペーン終了後はエネルギーコストや食材費等の値上がりがある為、楽観視できない。スタッフの確保も依然厳しい状況。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル

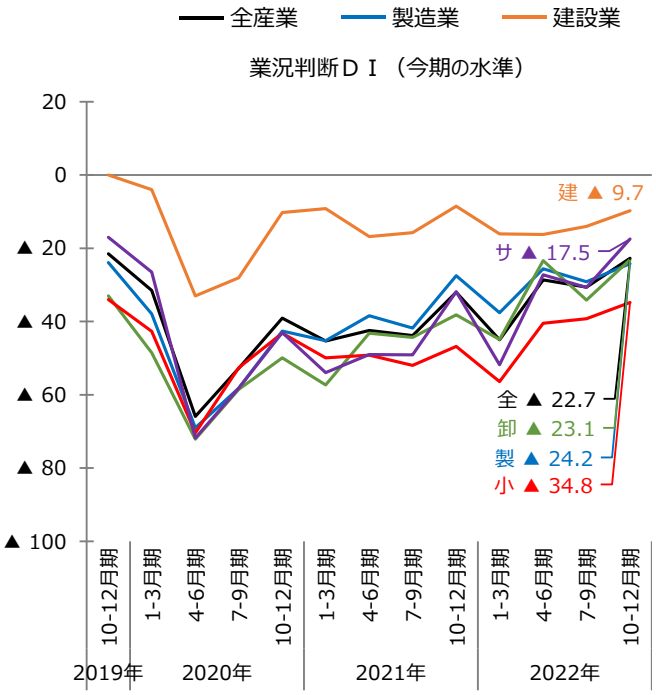
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

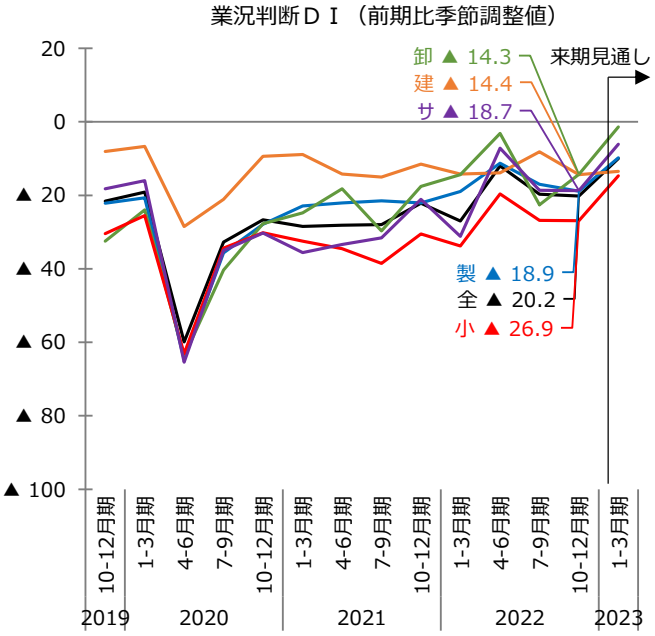
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　九州・沖縄

１．業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年7-9月期）より7.9ポイント増の▲22.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



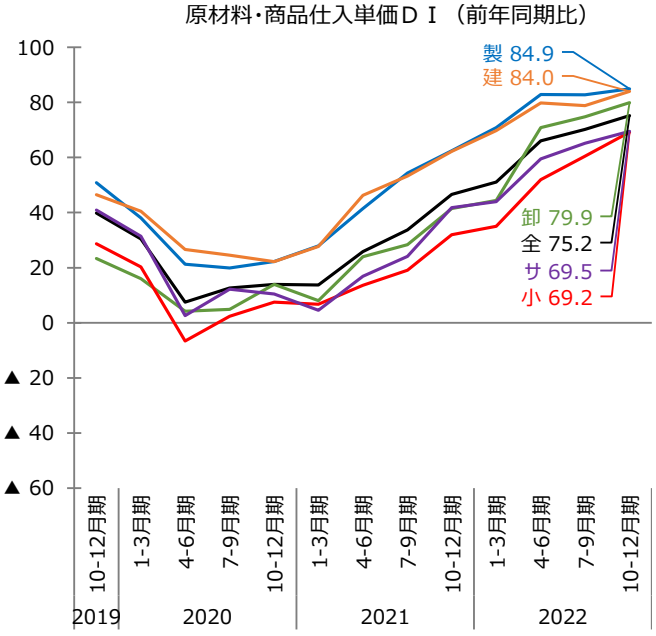
※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問



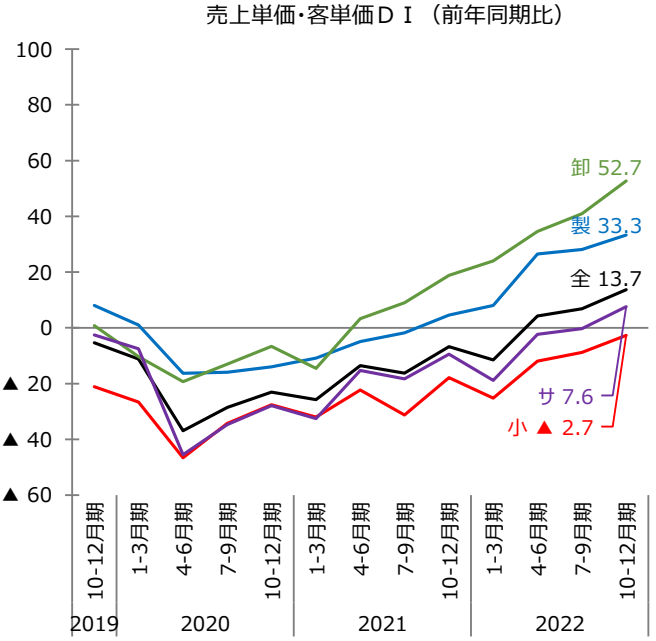
※前期（2022年7-9月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

２．仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より5.0ポイント増の75.2と7期連続して上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より6.8ポイント増の13.7と3期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問



※前年同期（2021年10-12月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

＜調査概要＞　調査時点は2022年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,843　有効回答企業数：18,055　有効回答率：95.8%　うち、九州・沖縄：2,762企業

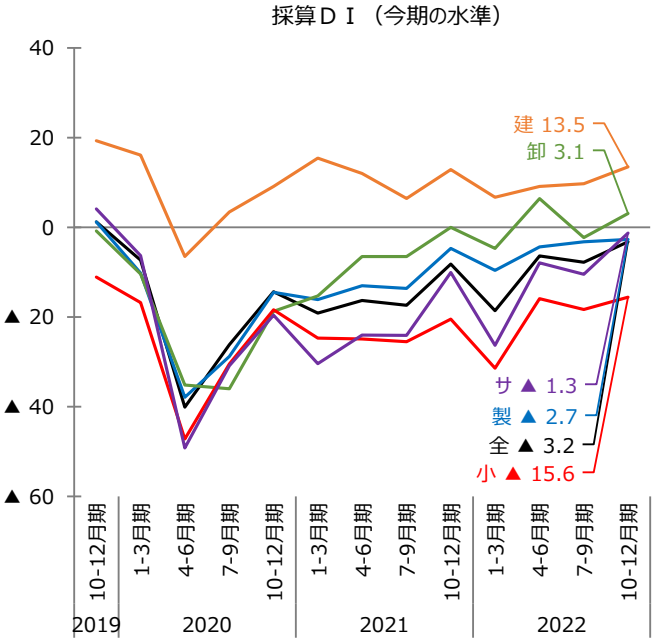
第170回　中小企業景況調査（2022年10-12月期）　九州・沖縄

３．採算

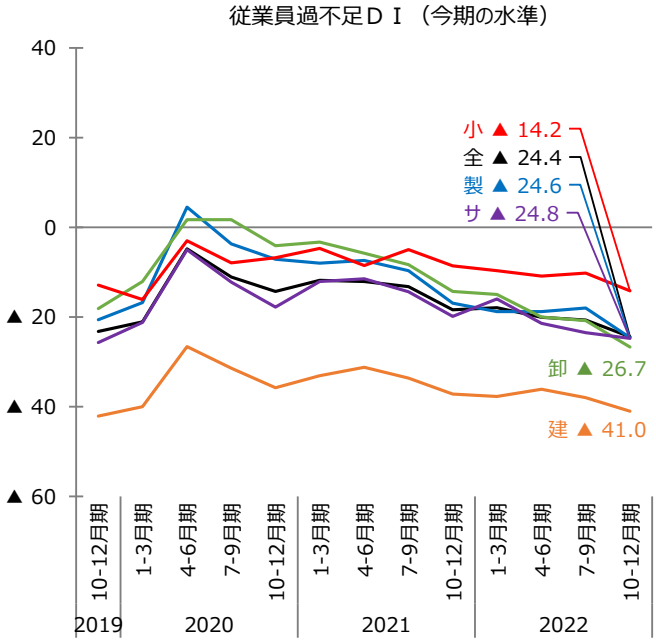
採算DIは、全産業で前期より4.6ポイント増の▲3.2と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

４．　従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.7ポイント減の▲24.4と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

４．九州・沖縄の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	エネルギー価格の高騰により、電力や運搬等の経費の増大に加え、全国的に物価の高騰に伴い、需要の落ち込みがみられる。	製造業	一般製材業
	従業員が減少する中、補充も困難で、受注に対応できず、売上が減少している。更に、材料の値上げによる工事単価は、特に民間需要では反映しにくく、利益確保が困難になっている。	建設業	一般土木建築工事業
	観光客も徐々に増え始めている為、前期と比較して売上も回復傾向にある。また、相次ぐ商品の値上げに伴い販売単価も上昇している為、売上が好転している。	卸売業	米麦卸売業
	まだコロナ禍前の需要に戻ってはいないが、昨年よりはイベントや式典の開催があり、花の需要も増えてきた。しかし、資材や仕入単価が上がり、社会全体が物価高になり、商品の販売価格も見直しの必要がある状況である。	小売業	花・植木小売業
	業界としては、活発になってきたが、人材確保についてはかなり難しくなってきている。採算的に考えて、厳しい案件も多く、コスト高を考えると、見積の重要性が高まり、気を引き締めて経営にあたるしかないように思う。	ｻｰﾋﾞｽ業	その他の情報処理・提供サービス業
見通し	原油価格高止まりで、光熱費・原材料単価が高騰し、最低賃金は過去最高の上げ幅で人件費が増加し、更に来年には電気料金改定が見込まれ、厳しい環境が続く見込みである。	製造業	パン製造業
	人手不足は、改善の兆しが見えない。人材を確保する為に、人件費が高騰している。生産性を上げなければ、数年後に大変になりそう。	建設業	一般土木建築工事業
	コロナ不況を経て、前期より回復の兆しが見受けられるが、今夏頃からの今までにない陶磁器価格の値上がりが市場で受け入れられるかの不安がある。	卸売業	陶磁器・ガラス器卸売業
	物価上昇により、人件費も上げていかなければならないと考えている。今後、販売単価を上げ、収支をより好転させなければならない。	小売業	ガソリンスタンド
	３ヶ月単位で部品、材料費の価額が上昇している。業界全体が高齢化、若手人材不足で、先の見通しが立たない不安がある。	ｻｰﾋﾞｽ業	自動車一般整備業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。